

# あかとつち 赤砥土プロジェクト

200年の歴史を超え、現代の高校生が挑む「赤砥土」の魅力開発

遡ること約400年前、風土や気候、材料、水など「やきもの」作りに恵まれた砥部町で「陶器の砥部焼」の製造が始まった。その約200年後には、先人の苦心の末、良質な天然砥石（伊予砥）を製造する際に出る砥石屑の再利用として、「磁器の砥部焼」が誕生した。陶器から磁器へと発展を遂げた砥部焼は、砥部町の主要産業として定着し、「白磁に藍の染付」が砥部焼として広く世間に知られるようになった。

そしてその約200年後に当たる現代。白磁の砥部焼に適さない陶石は、庭石に使用するか廃棄されていた。

砥石屑から「砥部焼」を生み出した200年前の先人にならい、砥部分校では、

現代の高校生が挑む「赤砥土」の可能性と魅力開発・発信に取り組んでいる。

